

- 問1 ある銀行において、預金者が受け取る利息の割合が年二パーセント、銀行が企業に資金を貸し出す際の利息の割合が年八パーセントに設定されているとします。このとき、銀行が主な収益として得ているものはどれですか。 (2026年 鳥取公立入試 類似)
1. 企業から受け取る利息と、預金者に支払う利息の差額
 2. 企業が株式を発行した際に、投資家から徴収する販売手数料
 3. 日本銀行から景気対策として支給される補助金
 4. 預金者が口座を維持するために銀行へ支払う管理費用
- 問2 家計から銀行などの金融機関へ預金が行われ、その資金を金融機関が企業に貸し出す「間接金融」に対し、家計が証券市場を通じて企業に直接資金を供給する「直接金融」の特徴を説明したものと、最も適切なものはどれか。 (2018年 徳島公立入試 類似)
1. 金融機関が仲介役となり、預金者の代わりに貸付先の審査やリスク管理を行う。
 2. 企業が株式などを発行し、金融機関を介さずに投資家から資金を直接募る。
 3. 日本銀行が通貨供給量を調整することで、市場全体の金利に影響を与える。
 4. 政府が公共事業を行うために、国債を発行して家計から広く資金を集める。
- 問3 日本の金融の仕組みを説明したレポートにおいて、家計や企業が金融機関に預けた預金を、金融機関が自身の判断と責任で資金を必要とする企業などへ貸し出しを行う形態を何と呼びますか。最も適切な用語を選びなさい。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 間接金融
 2. 直接金融
 3. 株式投資
 4. 自己資金調達
- 問4 景気変動のサイクルにおいて、生産や消費の活動が非常に活発で、景気の山の頂点付近にある好況期に、日本銀行が景気の過熱を抑えるために行う適切な金融政策はどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 日本銀行が保有する国債を市中銀行に売り、市場を流通する通貨量を減らす。
 2. 日本銀行が保有する国債を市中銀行に売り、市場を流通する通貨量を増やす。
 3. 市中銀行が保有する国債を買い入れ、市場を流通する通貨量を減らす。
 4. 市中銀行が保有する国債を買い入れ、市場を流通する通貨量を増やす。
- 問5 「日本銀行」が景気の安定を図るために、一般の銀行との間で国債を売買することなどを通じて、世の中に流通する通貨量を調節する仕組みを何というか。 (2023年 長崎公立入試 類似)
1. 金融政策
 2. 財政政策
 3. 社会保障制度
 4. 独占禁止法
- 問6 現代の経済における資金調達の仕組みについて、直接金融の特徴を説明したものととして適切なものはどれか。 (2022年 愛知公立入試 類似)
1. 企業が株式や債券を発行し、金融機関を介さずに投資家から直接資金を調達する仕組み。
 2. 銀行などの金融機関が預金者から集めた資金を、自らの責任で企業に貸し出す仕組み。
 3. 日本銀行が景気を調節するために、一般の銀行に対して資金の貸し出しを行う仕組み。
 4. 国や地方公共団体が公共サービスの資金を賄うために、国民から強制的に徴収する仕組み。
- 問7 市場経済における金融の仕組みのうち、企業が株式を発行して資金調達を行う「直接金融」について説明した文として、適切なものはどれですか。 (2025年 岡山公立入試 類似)
1. 企業が発行した証券を家計が購入することで、家計から企業へ直接資金が供給される
 2. 銀行が家計から集めた預金を原資として、企業に設備投資のための資金を貸し出す
 3. 日本銀行が市中銀行から国債を買い入れることで、世の中に出回る通貨量を増やす
 4. 家計が銀行に預けた預金に対して、銀行が利息を支払うことで資産形成を助ける
- 問8 日本銀行の組織や業務内容を整理した資料において、日本銀行が担う「発券銀行」「銀行の銀行」に並ぶ第3の役割について、その具体的な業務内容の説明としてふさわしいものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
1. 所得税などの国庫金を取り扱い、国債の発行や管理など国の資金を管理する。
 2. 一般の銀行に対して資金を貸し出し、銀行間の決済を円滑にする。
 3. 日本銀行券を発行し、世の中に流通する通貨の量を調節する景気対策を行う。
 4. 一般市民や民間企業からの預金を受け入れ、住宅ローンなどの融資を行う。
- 問9 中央銀行は、通貨の供給量を調節することで物価の安定を図ります。景気が過熱し、物価が上がりすぎると判断された際、日本銀行が市場の通貨量を減らすために行う適切な操作はどれですか。 (2017年 静岡公立入試 類似)
1. 保有する国債を市中銀行に売却する
 2. 市中銀行から国債を買い取る
 3. 減税を実施して家計の消費を増やす
 4. 公共事業を増やして市場にお金を流す
- 問10 資金の調達方法の一つである「間接金融」の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 岐阜公立入試 類似)
1. 企業が株式や債券を発行し、投資家から直接資金を借り入れる仕組み
 2. 銀行が預金者から集めた資金を、自らの責任で特定の企業に貸し出す仕組み
 3. 政府が税金として集めた資金を、公共事業のために地方自治体へ配分する仕組み
 4. 日本銀行が市中銀行との間で国債を売買し、市場に流通する通貨量を調整する仕組み
- 問11 日本銀行が実施する「売りオペレーション」が、経済全体にどのような影響を及ぼすことを目的としているか、その仕組みと因果関係を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2019年 新潟県公立入試 類似)
1. 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、企業や個人の資金借入れを抑制して景気を落ち着かせる。
 2. 市場の通貨量を増やすことで金利を低下させ、企業が設備投資を行いやすい環境を整えて景気を刺激する。
 3. 市場の通貨量を一定に保つことで為替相場を安定させ、輸出入のバランスを改善して物価の安定を図る。
 4. 市場の通貨量を急激に増やすことで物価を上昇させ、企業収益を向上させることで所得の増大を目指す。
- 問12 日本銀行が、景気不振の状況を改善するために行う「買いオペレーション（公開市場操作）」の仕組みについて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 佐賀公立入試 類似)
1. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い取り、市場に出回る通貨量を増やすことで、景気の回復を促す。
 2. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売り、市場に出回る通貨量を減らすことで、物価の上昇を抑える。
 3. 日本銀行が所得の高い層に対して税率を上げるよう指示し、その税収を公共事業に充てることで景気を刺激する。
 4. 日本銀行が民間金融機関に対し、それぞれの銀行独自の貨幣を発行させて市場の通貨量を増やさせる。
- 問13 日本銀行の主な役割には「発券銀行」「銀行の銀行」「政府の銀行」の3つがありますが、このうち「銀行の銀行」としての機能について説明した文として正しいものを次から選びなさい。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
1. 景気が悪化した際に、民間の金融機関に資金を貸し出すことで、世の中に出回るお金の量を増やす。
 2. 国の公金を取り扱い、公共事業などに必要な資金を政府に対して貸し出す。
 3. 家計が銀行に預けた預金の一部を、日本銀行が直接預かって管理する。
 4. 新しく発行された日本銀行券を、直接各家庭や企業に配布して経済を活性化させる。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 企業から受け取る利息と、預金者に支払う利息の差額	間接金融を中心とする銀行の主な収益源は、預金金利と貸出金利の差（利ざや）です。預金者には低い利息を支払い、企業などにはそれよりも高い利息で貸し出すことで、その差額を自社の利益や経費に充てています。提示された数値の例では、六パーセント分が銀行の収益の基礎となります。
問2	答え 2 企業が株式などを発行し、金融機関を介さずに投資家から資金を直接募る。	直接金融は、資金の余っている家計などが、資金を必要としている企業に対して、金融機関を通さずに資金を供給する点に特徴があります。この方式では、投資に伴うリスクは投資家（家計など）が負うこととなりますが、企業にとっては銀行の意向に左右されず、広く市場から資金を集められるメリットがあります。
問3	答え 1 間接金融	家計や企業から預けられた資金を、銀行などの金融機関が仲介役となって企業などへ貸し出しを行う仕組みを指します。資金の貸し手と借り手の間に金融機関が入るため、この名称で呼ばれます。これに対し、企業が株式や社債を発行して証券市場から直接資金を募る形態を直接金融と呼びます。
問4	答え 1 日本銀行が保有する国債を市中銀行に売り、市場を流通する通貨量を減らす。	景気が過熱している好況期には、物価が上がりすぎるインフレーションを抑える必要があります。日本銀行は保有する国債を民間の銀行（市中銀行）に売却する「売りオペレーション」を行い、その代金として銀行側の資金を吸い上げます。これにより、世の中に出回る通貨量が減少し、過度な経済活動が抑制されます。一方で、国債を買い入れる「買いオペレーション」は、不況時に市場の通貨量を増やして景気を刺激するために行われる政策です。
問5	答え 1 金融政策	日本銀行が通貨の供給量を調節することで、物価の安定や経済の健全な発展を目指す仕組みを金融政策と呼びます。主な手段として、市場での国債の売買（公開市場操作）があります。選択肢にある「財政政策」は、政府が予算や税制を通じて景気を調整するものであり、実施主体が日本銀行である場合には「金融政策」が適切な用語となります。
問6	答え 1 企業が株式や債券を発行し、金融機関を介さずに投資家から直接資金を調達する仕組み。	直接金融は、資金の貸し手がどの企業に資金を提供するかを直接選択し、そのリスクも負うのが特徴です。これに対し、銀行が間に入って資金を融通する仕組みは「間接金融」と呼ばれます。日本では伝統的に間接金融の割合が高かったですが、近年は直接金融による調達も重要な役割を果たしています。
問7	答え 1 企業が発行した証券を家計が購入することで、家計から企業へ直接資金が供給される	直接金融の本質は、資金の出し手である投資家（家計など）が、資金の受け手である企業の有価証券を直接購入し、そのリスクを投資家自身が負う点にあります。選択肢にある「銀行による貸し出し」や「預金利息」は、銀行が仲介してリスクを負う間接金融の仕組みの説明です。また、日本銀行による国債の売買は、金融政策の一環である公開市場操作の説明です。
問8	答え 1 所得税などの国庫金を取り扱い、国債の発行や管理など国の資金を管理する。	日本銀行の3つの役割のうち「政府の銀行」としての業務を説明したものです。日本銀行は政府の預金口座を管理しており、国民が納めた税金の受け入れや公共事業費の支払い、さらには国の借金である国債の発行実務などを担当しています。これにより、国の財政活動が円滑に行われるよう支える仕組みとなっています。
問9	答え 1 保有する国債を市中銀行に売却する	景気が過熱している場合、日本銀行は「公開市場操作（売りオペレーション）」を行い、保有する国債を市中銀行に売却します。これにより、市中銀行が持つ資金が日本銀行へと吸い上げられ、世の中に出回る通貨の量が減少します。その結果、金利が上昇し、企業の投資や個人の消費が抑えられることで物価の安定が図られます。
問10	答え 2 銀行が預金者から集めた資金を、自らの責任で特定の企業に貸し出す仕組み	間接金融では、預金者は自分の預金がどの企業に貸し出されるかを直接指定することはできません。金融機関が預金者から預かった資金を一括して管理し、審査を行った上で企業に融資します。一方、企業が株式などを通じて直接投資家から資金を得る方法は直接金融と呼ばれます。
問11	答え 1 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、企業や個人の資金借入れを抑制して景気を落ち着かせる。	日本銀行が国債を売却して市場の通貨量を減らすと、資金の供給が減るため、お金を借りる際のコストである「金利（利子率）」が上昇します。金利が上がると、企業は設備投資を控え、個人はローンを利用した消費を抑えるようになるため、過熱した景気が抑制されるという仕組みです。これはインフレを未然に防ぐための重要な金融政策です。
問12	答え 1 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い取り、市場に出回る通貨量を増やすことで、景気の回復を促す。	景気が悪い（景気不振）とき、日本銀行は世の中にお金を流通させて経済を活性化させようとします。日本銀行が一般の銀行（民間金融機関）から国債を買い取ることで、その代金が民間銀行へと渡り、結果として市場全体の通貨量が増加します。これにより、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなり、投資や消費が促進されます。税率の調整は政府が行う財政政策であり、また日本銀行券を発行できるのは日本銀行のみであるため、他の選択肢は誤りです。
問13	答え 1 景気が悪化した際に、民間の金融機関に資金を貸し出すことで、世の中に出回るお金の量を増やす。	日本銀行は「銀行の銀行」として、民間金融機関と取引を行います。景気後退期には、民間金融機関に資金を貸し出すなどして、企業や個人にお金が回りやすくする金融政策を実施します。政府にお金を貸し出すのは「政府の銀行」としての役割であり、一般の家計や企業と直接取引をすることはありません。